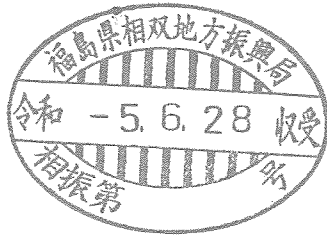


特別管理産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 28日

福島県知事 殿

提出者



住所 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号

旭化成株式会社グリーンソリューションプロジェクト
プロジェクト長 植竹伸子

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 044-271-2620

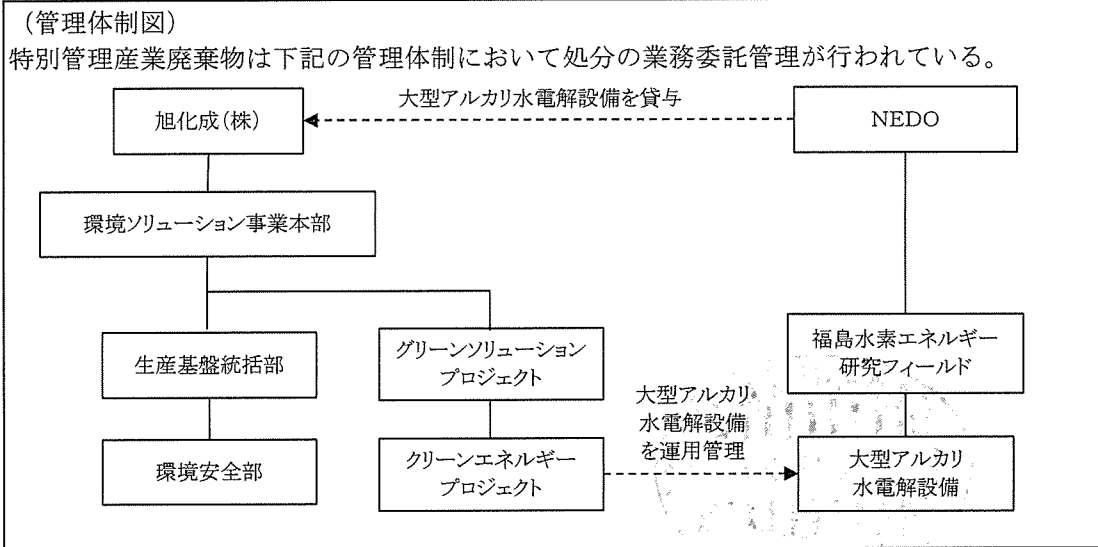
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)
事業場の所在地	福島県双葉郡浪江町棚塩字大原80番地
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	大型アルカリ水電解設備を用いた実証試験の実施 (新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から貸与契約した設備を用いて業務を遂行)
② 事業の規模	水素製造量: 約2,300,000 Nm ³ (2022年度)
③ 従業員数	常駐3名(派遣社員)
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	水素製造プラントから排出される廃棄物とその処理フローは下図の通り。 <p><水素製造プラントのフロー></p> <pre>graph LR; A[純水 電力] --> B[水電解装置]; B --> C[ガス洗浄]; C --> D[水素圧縮]; D --> E[水素精製]; E --> F[水素貯蔵・ 供給設備 (別事業者)]; C --> G[酸素(大気放出)]; B --> H[※水電解設備の メンテナンス時のみ排出]; H --> I[廃アルカリ (12.5以上)]; I --> J[焼却処理 (中間処理)]; J --> K[溶融固化]; K --> L[リサイクル (路盤材)];</pre>

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (2022 年度) 実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ (12.5以上)	—
	排 出 量	140.6 t	— t
	(これまでに実施した取組) 必要最小限の排出となるように努めた。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ (12.5以上)	—
	排 出 量	80 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 2023年度はメンテナンス頻度を低減するため、廃アルカリ量も減少する見込みである。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃液は廃アルカリ (pH12.5以上)のみで、防液堤内の専用タンク、あるいはスピルピット内の1m ³ コンテナタンクに保管し、確実な分別が行われている。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の維持管理を行う。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） 自ら再生利用は行っていない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） 自ら再生利用は行っていない。		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
（これまでに実施した取組） 自ら中間処理は行っていない。			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
（今後実施する予定の取組） 自ら中間処理は行っていない。			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行なった特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまで実施した取組) 自ら埋め立て処分は行っていない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 自ら埋め立て処分は行っていない。		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ	—
	全処理委託量	140.6 t	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	140.6 t	— t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまで実施した取組) 処理業者の処理施設を年1回訪問し、排出物の処理状態と中間処理(焼却処理)における残渣がリサイクルされることを確認してきた。		

(第5面)

②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	廃アルカリ (12.5以上)			
	全 処 理 委 託 量	80	t	—	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	80	t	—	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	—	t	—	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	—	t	—	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	—	t	—	t
	(今後実施する予定の取組) 現状の取組を継続する。				
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度 (2022 年度) 実績】				
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	140.6			t
	(今後実施する予定の取組等) 排出開始時より電子 manifests システムを利用しており、今後も継続 する。				
※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。